



香葉

第15号

通算46号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com

URL <http://koyokai.shonan.cc>

※各企画の申し込みはFax・Eメール・往復ハガキでお願いします。

学校探検ツアーとルツ寮お別れ会

金沢八景キャンパスに法学部が小田原校地から移転しました。本年3月に新校舎も建設され、八景キャンパスはまた一段と新しくなりました。今回その新校舎を中心に八景キャンパスの学校探検を行います。リニューアルした学食でランチにします。また、女子短大時代の学生寮だった『ルツ寮』もいよいよ見納めです。寮生のみなさん、是非足をお運びください。学校探検の後、エテルニテにて茶話会を開催いたします。遠方からお見えになる方は午後からの参加も歓迎です。午後から参加の方はご一報下さい。

- 日 時 10月1日(日) 10時(雨天決行)
- 集合場所 室の木キャンパス正門(元短大正門)
- 参加費 1,000円(資料・保険・昼食代等)
- 締め切り 9月15日(金)

山手西洋館散策〔ガイド 精木 勇(元短大講師)〕



異国情緒豊かな山手を今年も歩きましょう！
ご参加お待ちしております。

- 日 時 12月2日(日) (雨天決行)
13時～15時30分
- 集合場所 港の見える丘公園入口
- 参加費 1,000円(資料・保険代等)
- 締め切り 11月21日(火)

ビーズ講習会〔講師 高石和枝(国4)〕

毎年好評のビーズ講習会です。今年は新装になった香葉会室(エテルニテ1階)で行います。

ご期待ください！定員10名

- 日 時 1月20日(日) 13時
- 場 所 香葉会室
- 参加費 3,000円(材料費等)
- 持ち物 糸切り鉋
必要な方は眼鏡
- 締め切り 12月15日(金)



昨年の作品

クリスマス小物づくり講習会

松ボックリを中心にしたクリスマスのオーナメントを作ります。お楽しみに！

- 日 時 11月18日(日) 10時
- 場 所 香葉会室
- 参加費 1,000円(材料費等)
- 締め切り 11月4日(日)



第9回 香葉賞

2017年3月24日(金)人間環境学部4学科の卒業生に9回目となる香葉賞を授与しました。香葉賞は人間環境学部の礎となった女子短期大学の先輩から、後輩へのエールとして毎年賞状と記念品を、4年間がんばった卒業生に贈っています。学生時代の一つの証になることを願って！



卒業生の冊子を作ります!!

昨年の香葉でお知らせした通り、香葉会の集大成として冊子の編集を開始します。下記のようなカテゴリーで原稿をお寄せください。または、活躍している卒業生をご紹介ください。

★短大で学んだことを生かす／★私の仕事／★恩師への手紙／★亡くなった短大時代の友人に向けて／★卒業してからの私／★子育て記／★その他自由に

ご執筆にあたりましては、香葉会へお電話またはEmailでご一報ください。尚、今年度の締め切りは2017年12月31日です。ホームページ <http://koyokai.shonan.cc> にも詳細を載せております。ご参照ください。皆様の短大への熱い思いをお待ちしております。

関東学院循環バス金沢八景駅発 土曜日 8時～16時 00 20 40 に出ています。

会長挨拶



山口 佳子(国1回)

「変わることに、変わらないこと」
皆様、短大をご卒業後いかがお過ごしでしょうか。

戦後三春台で始まった関東学院短大。そこにあつた塔のある建物、今、旧中学校本館はありません。大学と同じキャンパスだったこの短大の校舎は、燦葉会の同窓会室として大事に使われていましたが、老朽化によりなくなりましたことは記憶に新しいことです。

また短大のありました場所には看護学部が創設され、看護学部棟が建ちました。また人間共生学部、教育学部、栄養学部とあり、真ん中にある庭にも学生の姿が多くみられます。

目に映るものは日々刻々と変わり、その変化に杞憂いたしますが、周りの変化に対して変わらなないことがあることを、「香葉」に寄せられる文章から感じることもできます。それは卒業された同窓生の、学校に対する変わらなない想いです。「香葉」に寄せられるお便りは、学校への愛に満ち溢れています。これは卒業生を温かく教えて下さった先生方や職員の方々の優しい接し方にもあつたと感じています。

そこで、短大改組後十五年という節目を機に「卒業生の冊子」を作りたいと考えております。今まで香葉に掲載いたしました卒業生通信を参考に、短大を出てからの暮らしの様子、短大の思い出、先生方への感謝の言葉等をお寄せいただき、一冊にまとめたのです。お便りをお寄せください。今年度の原稿の締め切りは平成二九年十二月三十一日でございます。皆様からのお便りをお待ちするとともに共に、益々の関東学院の発展を祈りたいと思います。

校訓と想い

看護学部長 平田明美

香葉会の皆様、初めまして、平田明美と申します。今年度四月から看護学部長を務めております。まずは、自己紹介をさせていただきます。私は、看護師として働きながら、関東学院大学経済学部(当時の二部)で四年間学びました。そして、経済学研究科修士・博士課程に進学し、計九年間、関東学院大学にお世話になりました。

その後も病院看護師を続けておりましたが、ある大学から声をかけていただき、看護教員として再出発しました。教員生活になんとか慣れてきました時に、関東学院大学で二〇一三年度に看護学部を開設すると聞き、及ばずながら母校に貢献できればと、教員として戻ってまいりました。様々な方面からご協力をいただきながら、教育・研究・運営に携わってきました。おかげさまで、看護学部第一期生は、二〇一六年度三月に六



十六名が巣立ち、国家試験一〇〇%合格を達成することができました。

ここ室ノ木校地は、静かな環境に恵まれており、この独特の雰囲気と校訓へのこだわりが、学生達の気質に影響しているように思われます。校門にリスがちよこんと座っていたり、木々の間を素早く動く姿を見かけると心なほ思いがいたします。春は守衛室を取り囲む満開の桜に目を奪われ、初夏には三年生が実習の前の派遣式で、パイプオルガンの音色をバックに発表する「自分たちが考える、人になれ 奉仕せよ」に感動し、夏はオーブンキャンパスの賑わいに心弾み、冬には大きなクリスマスツリーの点灯に一年を振り返る日々です。

この原稿を書くにあたり、改めてこの地で皆様方が学業に励みながら培われていた「想い」を考えました。四年制の「人間環境学部」に移行し、今年度は「人間共生学部・教育学部・栄養学部」と、組織や教育体制が変化しました。それにも関わらず、この地には皆様の「想い」がしっかりと根付き、受け継がれているのだと感じられます。看護学部も校訓と皆様の「想い」を受け継ぎ、更なる発展を目指していきたいと思えます。

卒業生の子女・孫のための オリブ入試

関東学院大学はその建学の精神を伝え、守って行くことを大切なことと捉え、女子短期大学・大学・大学院の卒業生の子女・孫にあたる人を

対象とした入試を実施しています。卒業生でなければ分からない関東学院での学生生活を、子供や孫に伝えて行きますか！出願期間は九月一日(金)から七日(木) 必着、選抜方法は小論文と面接で、試験日は九月二四日(日)です。また入学金(二八万円)が免除されます。詳細は関東学院大学入試センターまでお問い合わせください。

ふるさと関東学院募金を 応援しよう！

皆さま「ふるさと関東学院募金」はご存知でしょうか？新聞でも取り上げられた話題の制度です。

この募金は関東学院の各学校を指定して寄付をすることが出来ます。また、寄付をしていただいた皆さんにはお礼の品として、卒業生が経営するお店や会社で製造・販売している商品をお届けいたします。

私学は卒業生の支援が大きな力となり、学校の雰囲気を作って行く原動力になると思います。寄付をして支援することももちろんですが、皆さんが経営する会社の商品やサービスを、この募金のお礼の品として提供しませんか！または、お友達で提供可能な方の情報をお知らせください。母校と卒業生を繋ぐ良いチャンスです。商品の代金・送料は学校で負担してくれます。

詳細は「ふるさと関東学院募金」で検索、または香葉会へお問い合わせください。

法学部が 八景キャンパスに移転

関東学院大学法学部は本年四月、小田原から金沢八景キャンパスに移転しました。

法学部は一九九一年に創設され、以後二五年間小田原市の荻窪で多数の卒業生を排出しました。しかし、近年の法学部離れにより定員割れを余儀なくされ、総合大学としての魅力押し出す形で、横浜の金沢八景キャンパス内に移ることとなりました。

新校舎は三号館と呼ばれ、他学部の学生や地域の方々との繋がりも考慮し、大学の正門近くに建てられています。

一階は学生食堂と重慶飯店、学生が気軽に使えるフリースペースになっており、中央の玄関を入ると目の前にエスカレーターが配置されています。全面ガラス張りの一階部分は明るく開放的です。二階は教室で法学部の学生だけでなく、他学部の学生も使用するそうです。三階は情報処理関係の演習室、四階は会議室とゼミ室、五階は教員の研究室が置かれています。(十月に開催する香葉会企画「学校探検ツアー」でご案内します。)

小田原校地は周囲をミカン畑で囲まれ、小高い山一つ全てがキャンパスのような、広大でとても恵まれたキャンパスでした。現在の湘南・小田原キャンパスは材料・表面工学研究所を中心とした国際研究研修センターとして、活躍の場を広げています。

関東学院大学における 公開講座の役割と効果

社会連携センター長 立山 徳子

関東学院大学(以下大学)の公開講座は生涯にわたる学習機会を広く社会に提供することを目的とした社会貢献事業として、二〇〇二年に生涯学習センターを設立したことに始まります。その後二〇一七年に社会連携センターが開設され、生涯学習事業が統合されてからは、一般市民向け講座以外にも力を入れ、大学ならではの深い学びや人材育成を目的とした社会人の学び直しプログラム等を組成するなど、多くの人々に学びの場を提供しております。

大学における公開講座の役割は主に大学の第三の機能である「社会貢献」を担っており収支を見つつ大学の持つ専門知識を広く地域・社会に発信していく大学の「知」の還元を目的としています。また大学の地域貢献機能を果たしながら大学経営にもプラスの効果を発揮しており、その効果については大きく「広報効果」「ネットワーキング構築効果」「学生・教員に対する教育効果」などがあります。

公開講座によって大学が得る「広報効果」としては、大学の「認知度向上」や大学に「親しみを持ってもらうこと」また公開講座を通じて市民に「大学に足を運んでもらい、大学の活動内容を知ってもらう」といった役割が大きいといえます。

「ネットワーキング構築効果」については、市や県などの自治体と協力し



講座風景



フィールドワーク

て連携講座を実施することで自治体や市民から地域ニーズを収集できる貴重な機会を得たり、自治体が運営するイベントや企画のサポートをする一方で、大学の公開講座を自治体が発行している広報誌やホームページなどで告知してもらうなどの協力体制を築いています。

「学生・教員に対する教育効果」では、学生の場合、公開講座に参加することで、学生と世代の異なる受

講生との交流機会を得ることができません。また教員の場合では、一般の方にアカデミックなことを教える機会を持つことで、学生に教えるのは異なる視点をもて、その結果が教員の研究にもフィードバックされ、研究に還元することができそうです。

またこの他にも事例は多くないものの、公開講座の受講生が科目等履修生へ発展するケースなどもあります。

さらに二〇一六年度には新たな取り組みとして、社会人を対象とした文部科学省の「職業実践力育成プログラム(BP)」に本学の材料・表面工学研究所と連携して「材料・表面技術マイスタープログラム」の認定申請を行い、十二月に無事採択されて、今年の五月より講座がスタートしております。

このような社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムの組成など、新たな取り組みを行いつつも、大学の持つ専門知識を広く地域・社会に発信し、大学の「知」を還元していきたいと思っております。今後とも本学の公開講座にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年度	
秋学期公開講座ガイドブック請求	
8月28日(月)	12月16日(土)
社会連携センター	
平日	8時30分～16時30分
土曜日	8時30分～12時30分
閉室日	日曜日、祝日
電話番号	045-7786-7892
FAX	045-7786-7893

ルツ寮の軌跡

関東学院女子短期大学には学生寮がありました。その学生寮は「ルツ寮」と総称され、短大が改組された時には寮の使命を終えましたが、その後も学生たちのために役目を果たしていました。短大におけるルツ寮の歴史は五十年近くに及びます。最後まで「ルツ館」という名前で残った建物は、一九六四年に室の木キャンパス東端に建てられたものです。そのルツ館も老朽化が進み解体されることになりました。様々な青春模様を描いてきたルツ寮の軌跡を追います。

短大の学生寮は一九五三（昭和二八）年家政科が六浦校地に移転した年に最初に開設され、間もなくルツ寮と命名されましたが、収容人員二十名では足りなくなつたため、一九五九（昭和三四）年に近くの民家を借りて第二ルツ寮としました。

一九六三（昭和三八）年に米国バプテスト婦人ミッションからの寄付により、一九六四（昭和三九）年にハンソン山東面に新たな寮が建てられました。当時は珍しかったコンクリート造り二階建てで、寮母さんの部屋、食堂、放送室、和室、洗濯室、屋上物干し場、そして二人一部屋の個室が二五部屋の設備の整った寮でした。食事の管理も行き届いていて、専任の栄養士さんと調理人さんが常駐し、それはそれは愛情たっぷりのお食事が出されていたようです。



ハンソン山から見たルツ寮



入口にルツ寮名あり

昭和五十年代に入ると短大入学希望者の増加と共に、寮に入ることを希望する学生も多くなり、室の木キャンパス内にあった教職員アパートの一棟を改修して第二ルツ寮としました。定員は二つの寮を合わせて九四名でした。その後第二ルツ寮の隣にあった教職員アパートも第三ルツ寮として改修し、毎年百数十名の学生たちが勉学と住居近接の環境で二年間の学生生活を送っていました。こうして長年にわたり学生の生活

を守っていたルツ寮も、短大の改組を受けて二〇〇〇（平成十二）年に廃止されその幕を下ろしました。わずか二年間の短大生活。毎年二年生が寮から巣立ち、新しく一年生が入寮する、というサイクルの中で、それこそ何百何千もの人生を見続けて来た「ルツ寮」に今改めて敬意を表します。

参考資料・(1) 関東学院学院史資料室
ニューズ・レター第二十号
(2) 関東学院の女子教育―女子短大の存在と私― 林淳三著

第十四回 ルツ会開催の報告

大井 法子（英12回）
藤井 博子（家12回）

冒頭のルツ会の名は、関東学院短期大学の女子学生専用の寮が、かつて校内の片隅に有り、名前をルツ寮と云いました。そこから由来したものです。

その寮で二年間を過ごし昭和三八、三九年に卒業した英文科、家政科の寮生の親睦を目的にした会です。

十四年程前に還暦を迎えた私達はふと昔の仲間たちのことを思い浮かべ、判る範囲で連絡を取り第一回ルツ会をランドマークで開催することが出来ました。それ以来、今日まで一回ルツ会が続いております。

今年九月下旬、新横浜のグレイホテルに、遠くは宮城、大阪、岐阜、群馬他から十数名が集いました。いつもの事ながら五十数年前の寮生時代に戻り、お互いを当時の愛称で呼び合い話も尽きず、それはそれは楽しいひと時でした。今回は五十数年ぶりに校歌 college days in Yokohama や、青海は波静かなり平潟に…を合唱しました。

卒業後各地で生活をしているルツ寮生ですがルツ会もそれに合わせて度々、地方でも行って来ました。

年月を経るにつけ様々な環境変化により、参加も盛ならなくなつてくる方もいますが、皆さん出られる時に出て頂ければと思っております。

いつもお喋りの尽きない仲間たちですが最後に来年の幹事を決め、そ

の方たちに一切を任せ、次回のルツ会を楽しみに名残惜しくも散会いたします。この先いついつまでもルツ会が続く様に祈りつつ報告致します。



「今、思うこと」

金井 昌美（幼13回）

「あなた達のうしろには、いつも、沢山の子ども達がいる」

あれは確か、朝倉先生の講義の中の言葉だった。広い講義室の一番後ろの席…窓から遠くに見える東京湾には、どこかの国の大きな船が、春のきらきらした陽射しの中に浮かんでいるのが見えた。決して、勉強熱心ではなかった私…その日もいつものように、授業の合間に窓の外を眺めては、ボーッと何かを思いはせていた。

そんな私の耳に、すんと落ちてきた言葉…「あなた達のうしろには、いつも、沢山の子ども達がいることを忘れないで下さい。」

例えば、あなたが赤信号で横断歩道を渡る時その時はあなたただでなく、後ろにいる子ども達も一緒に渡ることになるのです。子ども達はいつもその綺麗な澄んだ目で、あなた達の行動を観察しています。将来、子ども達の先生になる皆さんには、どんな時もそんな心構えで行動して頂きたい。」あの日から、もう三十年…この言葉は今でも私の心にしっかりと残り、消えることはない。

私は今、川崎市にある総合病院の院内保育園で園長をしている。病院



に勤務している医師や看護師のお子さんをお預かりしているが、特に病棟勤務の保護者の場合は昼夜を問わず勤務があり、お迎えの時

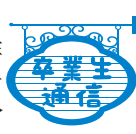
間もままならないことがある。そんな状況の中、院内保育園の大きな役割としては、安全な環境の中一人ひとりに対して丁寧な保育をすること、保護者の方々に信頼と安心を頂く事。そしてその上で可能な限りのニーズにお応えし、安心してお仕事をする為のお手伝いをさせて頂くという、保護者に対するサービスの提供といった内容が強くなっている。

「すみません。勤務変更で、明日出勤になってしまつて…。預かって貰えませんか？」夕方のお迎えの時、こんなことを言われるのも、珍しい事ではない。更には「私が通院したいので、夕方まで預かってもらいたいのですが…」等々要望は様々だ。園の方針として条件的に可能な限りは、受け入れする方向で対応している。

保護者の都合次第で、昼も夜も休日も関係なく、園で過ごすことになる子ども達…。時には、そんな園の体質から、色々と悩む事もある。本当に、これでいいのだろうか。子ども達にとつての本当の幸せとは？自

分はそのために何ができるのかと…。そんな時にもあの言葉が私を助けてくれる。「私のうしろには、いつもたくさんの子ども達がいます。」子ども達との毎日の時間を大切に過ごす事。好奇心でキラキラ光る綺麗な瞳を曇らせることがないよう、一緒に様々な体験や感動ができる環境を作っていくことが、今ここで私が出ること。どんな状況であっても、常に子ども達の目線に立って、一緒に学んだり、楽しんだり、感動したりする気持ちを忘れずにいたい…。今でもなお、大切なことを私に教えてくれるこの言葉と、大好きだった学校、そしてそこでの全ての出会いに感謝しながら、日々邁進している。

さて、そろそろ子ども達がやってくる。今日は何をしてドキドキしようかな…？



自由に勉強できる喜び

石渡 朝子 (英30回)

昨年八月、朝日新聞「声」欄に次のような投書を書かせていただきました。

『大人になってから勉強の楽しさを味わっている。母校の大学(当時短大)の生涯学習で学び、図書館で過ごす時間は至福の時だ。しかし子供の頃の私は、勉強が大嫌いだった。特に中学の英語はひどく、わかからない、勉強しない、出来ないの悪循環だった。見かねた母が、教員免許を持った人に指導を頼んでくれ

た。一から丁寧に説明してもらい、クラスの平均点程度は取れるようになった。大学受験の時、ひどい風邪をひき、第一志望は受験出来ず、滑り止めの短大の英文科に進んだ。するとそこでは、英語の基本から英文学や英詩、英会話の楽しさまで色々と教えてくれた。折にふれて「英語が出来たら楽しいわよ」と言われ、度々ほめられた。

それでずっと英語の勉強を続け、今は中学生から社会人相手に指導もしている。わからない人の気持ちかわかるので、説明が理解しやすいとよく言われる。

それにしても、大人になってからの勉強は何て楽しいのだろう。宿題もなく、自分の興味のあることだけをやっていけばいいのだ。学費を出してくれた両親に改めて感謝し、元劣等生は今、一生勉強を続けたいと思っている。』

今、英語を使って仕事を続けていられるのは関東学院のお陰です。そして当時から、短大だったのに大学の図書館を使わせて頂けることは本当にありがたいです。文中でよくほめて下さったのは、短大英文科の宮川、加藤、徳永、深沢、宮崎各先生はじめ諸先生方です。

そして五六歳になった今も、大学の図書館や食堂なども使わせて頂けること、心から感謝しております。元短大の校地や六浦の校地がどんな立派になっている様子、一卒業生として大変嬉しく拝見しております。これからの益々のご発展を心からお祈りしております。

※石渡さんから関東学院大学庶務課 校友担当へ送られたお手紙と、朝日新聞への投書を香葉編集部においてまとめて掲載いたしました。

香葉会室引越

昨年、ルツ館の三階に上がる階段の天井・壁が剥がれ落ち危険な状態になりました。

ルツ館にあった香葉会室は、ルツ寮の二つの部屋を一つの部屋に改良して作って下さり、天井は低くかつたのですが、小さな部屋の中に暖房機が二台。昼間は隣の公園から子供たちの声が聞こえ、気持ちの良い部屋でした。下田先生の追悼会後の茶話会・企画の交流会の茶話会・クリスマスのお物作り等、思い出がいっぱい詰まった部屋でした。

長い間使用してきた香葉会室も、エテルニテにお部屋を頂き移動しました。

田山先生の思い出

伊澤 敏恵 (幼2回)

香葉で田山先生の訃報を知りました。私は軟式庭球をやっていました。短大生活二年間、田山先生からたくさんのお話を教えていただきました。とても厳しくて怖い先生でしたけれど、その厳しさのおかげで技術が向上したような気がします。

今もママさんとして軟式庭球を続けています。大会にも出場していて、何十年ぶりくらいに大会会場で田山先生にお会いしたのが最後になりました。ありがとうございました。

先生ありがとうございました。

「十一月五日海上保安庁見学会」

立間 浩代（英31回）

毎年「香葉」の到着を楽しみにしています。形は変わっても母校はいいものです。色々な活動が紹介されていて、県外にいる私は「近くだったら参加できるのに」と羨ましく思っていました。

そんな私が今回だけは「遠くても参加したい。何十年もブランクあるけれど申し込みしてみよう！」と思い立ちました。

「海保」＝海猿、エリート集団、そんな薄っぺらいイメージを持ったまま、参加させていただきました。

集合場所の整備場駅に今回ご尽力いただいた大本様のご主人様が出迎えてくださり、総勢二十名で向かいました。昭和の匂いのある歴史を感じる建物に入ると、まず、研修室に通され資料をいただき、海上保安庁の概要説明を聞きました。どんな船があるのか、どんな時に出勤するのか、緊迫した事件のことなど、ドラマや映画とはまったく違うものでした。あつてはならないことだけれど、外から武力行使されたら、私たちを守るために、日々訓練されているのだと痛感しました。

国内においては、災害が起きると海から空から援助活動をしてくださいます。常に動けるようにしておくことは本当に大変なことだと思いました。

説明のあと、格納庫の見学をさせていただきました。飛行機の見学と、ヘリコプターは実際に乗るだけでない



く、救助される体験もできました。地上からヘリコプターに回収されるまでは約一分半だそうで、途中で気を失ってもするりと抜け落ちないようなベルトの

かけ方を習いました。いざというときに、知っている人が一人でも地上にいると役に立つところへ近づかない、泳げない人は海に出ない。僕たちと出会わない人生を送ってくださいね」とさわやかな笑顔で話されていました。何事もなく日々暮らしているけれど、見えないうちで守られているのだと考えさせられる一日でした。

クリスマス小物づくりに参加して

森 禎子（家1回）

アドヴェントまであと十一日。まだ十一月半ばと言うのに街中にはクリスマスソングが流れています。毎年、届く「香葉」が楽しみで、

この度の「クリスマスリースづくり」に心ひかれ、申し込みました。六名の同窓生が集まり、すぐに打ち解けました。

テーブルの上には、細い木の枝を編んで作られたリース、小田原キャンパス内で収穫したポプラの実、松ぼっくり、林檎やベル等のオーナメ



ント、何色ものリボン、手作りのワイヤー!!この中から自由自在に使い「世界でたった一つの私のリース」を作ります。

最初はお喋りしていたのが、段々と皆、口数が少なくなっています。約一時間半後、皆の思い思いのリースが完成しました。各々の玄関にこれから飾られるであろう、出来たばかりの自分のリースを写真におさめました。

リースづくり終了後、皆で学食へ。昔の話や人生の話(?)等で花が咲きました。(Cランチのオムハヤシ、おいしかった!)

帰り、皆で中庭に飾られた大きなツリーを撮影した後、八景駅まで、バスで帰る人と歩いて帰る人に分かれました。

卒業してはや三十年…。シーサイドラインが出来て風景は変わりましたが、湾内に繋がれたヨット、道行く学生達の列は、今も昔も変わらずでした。又、来年もこの様な企画が有れば是非、参加してみたいと思います。

ビーズ刺繍講習会に参加して

榎 桂子（幼6回）

十月二十二日、はじめての関内メデアセンタールにキョロキョロしな

がら到着しました。ひとりでの参加でしたが、お部屋に入るともう、みなさん同窓というだけで、なんと居心地がいいのでしよう。

この日はクリスマスツリーのブローチを教えていただきました。

はじめは竹ビーズを刺してツリーの本体を作ります。刺すのは簡単でも、形を整えるのがなかなかむずかしいところです。ツリーができたら今度は色とりどりのビーズやスパングルで飾りを刺していきます。クリスマス待ちながら、ツリーを飾りつけていくようなわくわくした気持ちになり、いつの間にか心の中にクリスマスソングが流れていました。作業の途中、学科はどこだったか訊かれ、「幼教です」と答えると、「あら若いね」と言っていただきびっくりしたり、楽しい時間を過ごすことができました。

心踊る山手西洋館散策

齋藤 恵（経10回）

天高く晴れた日、山手西洋館散策に家族で参加して来ました。三歳の長女が長い距離を歩けるようになったし、二歳のお子さんを持つ学生時代の友人家族も参加するとのこと、ご迷惑を承知で思い切った参加でした。今回はカトリック山手教会からのスタート。チャペル内はとても厳かで、クリスマス前であった為イエス誕生のオブジェなどが飾っており、娘は興味津々でした。



かつては双塔のレタ造りだった教会は、関東大震災を経て現在の白く凛とした外觀に緑の尖塔が象徴的な今の姿となったそうです。余談ですが、ユーマンが結婚式を挙げた教会と言われているそうですよ。

今回は主に西側の洋館を見学するコースで精木先生の画集を片手に、娘の手を片手に、先生の贅沢な解説を聞きながら、ゴールの山手二四番館までゆつくりとクリスマスマード一色の数々の洋館を見物しながら散策を楽しみました。横浜の歴史を見てきた西洋館の背景に、時々見えるみなどみらいの景色と、コートの手を翻すキーンと冷たい風に、なんとも言えない心が踊るような気持ちになりました。

精木先生が画集の最初にお書きになっている「なんてエキゾチックな山手！」まさにその言葉を実感する散策でした。今回参加した二歳と三歳の子供二人も最後まで楽しそうにちゃんと歩けました。何度も参加されている方もいらっしやる毎年恒例の人気企画との事です。お子様のいらっしゃる皆さん、山手をゆつくり歩きながらママもリフレッシュできますし、是非お子様と一緒に参加してみて下さいね。

同窓会報告

「たった二年
されど二年」

足立 道子(国1回)

昨春秋外出先から帰ると家人が「上尾の伊藤さんから電話がありました。」とのこと。短大時代のワネル仲間だ。思えば卒業してから約五十年、三十年前に中華街で皆で食事して以来、この二十年間音信不通で過ごして来てしまった私は突然の電話にとまどいながら「ゲコ」こと旧姓矢野章子さんにダイヤルを回しました。

久しぶりに聞く彼女の声になつかしさを感ぜながらも一瞬何か不穏な、不吉な予感が頭をよぎりました。お互い長い間の御無沙汰の言葉を短く交わすと、彼女の次の言葉は「実は見目さんが亡くなったのー。」との事でした。



短大時代ワネルフォーゲル部の部長をつとめた見目容子さん(現山崎容子さん)とは同じ国文科一期生で同じクラス。本当に仲良くしていただいたのに卒業後は何故か疎遠になってしまった。ここ数十年年賀状のやりとりもなく、恥ずかし乍ら住所さえ存じ上げない有様でした。新しい曲物造りの夫の許に嫁いでからは、農業もしている関係で、春秋の農繁期は特に多忙を極め、とても聞かされたお通夜や

葬式には出席できそうもなく、心ばかりのものを送らせていただくのみでした。

その後残された五人の仲間、井田牧子(旧姓広井)さん、白坂嬉枝(旧姓青木)さん、藤田さき江(旧姓萩原)さん、伊藤章子さん、私足立道子(旧姓も足立)と電話で連絡を取り合い、お互いに思ったことは「生きているうちに皆で会いたいね。」ということでした。

今年一月十五日、皆さんのお骨折りのお陰で卒業してから実に四十五年振り五人が再会することができました。桜木町駅での待ち合わせは何となく不安なような、でも声をかけられお互いを認め合うのに時間はかかりませんでした。

昔日の面影を残し乍らも皆それぞれ年の輪を刻んだ素敵な老婦人になっていました。

昼食の席でまずワインで献盃、容子さんをしのび乍ら話題はもっぱら短大在学中、そして卒業してからもお互いに、又それぞれに踏破した山行の思い出話に花を咲かせ、時の経つのを忘れる程でした。

宿泊先のロイヤルパークホテルに場所を移し、五十五階からの横浜港の眺望を心ゆくまで楽しみ乍ら、それぞれの現在の状況を披瀝しつつ、家族の事、仕事の話、健康についての身体の事等おしゃべりはつきるころがないかと思われる程でした。そして誰かが「たった二年間いっしょに過ごしただけなのにね。」と云ったことばに皆うなづいて、この長い年月がたつても、今又家族のように、

同窓会報告

幼児教科昭和六十三年
卒業A組同窓会

鶴岡 裕子(幼14回)

私たち卒業生は、卒業してから二年後に第一回同窓会を開催してから、三年ごとに、幹事を決め同窓会を開催してきました。

今年の四月に開催した同窓会は、四回目にして、五十歳という年齢の節目でもあり、遠方の秋田や福井からもかけつけてくれて、十八名の参加となりました。

担任として、また、幼児体育などを教えてくださった中田先生は、毎回出席してくださり、今回の同窓会でも、短大の頃の話や先生が持ってきてくださった写真を見ながら、大いに盛り上がりました。八十一歳とご高齢になられても穏やかな人柄は全く変わらず、先生の話聞きながら、私たちは、短大時代に戻ったような気持ちになりました。(P.8へ)

「関東学院女子短期大学記念奨学金」報告について

「関東学院女子短期大学記念奨学金」の2016年度の給付状況について大学から頂いた情報を昨年より公開しています。

Table with 3 columns: 種類 (種別), 人数 (人数), 金額 (金額). Rows include 第1種 (家計急変) 3名 2,194,000円, 第2種 (留学生) 0名 0円, 第3種 (学業優秀) 5名 500,000円, 合計 2,694,000円.

また、2015年度については12名に対して6,494,660円の給付を行いました。また、利息等の他、短大奨学金の返還が続いているため、2015年度の収支は3,749,380円ほどの支出となりました。

なお2016年度には、人間環境学部の現代コミュニケーション学科及び人間環境デザイン学科を元に人間共生学部コミュニケーション学科及び共生デザイン学科が新設されました。2015年度に新設された、栄養学部及び教育学部と合わせて、女子短期大学の流れを汲む人間環境学部、栄養学部、教育学部及び人間共生学部の4学部合同で奨学金を運用させていただいていることを合わせてご報告いたします。

一人ひとりも現況報告をし、子育てのことや仕事のこと、そして参加できなかった友達のことなどの話も聞くことができ、三時間の会はあっという間でした。その話の中で、現在も保育や子供にかかわる仕事に就いている仲間が多く、今でも先生に教えていただいたことが生かされていることが分かりました。お互いにパワーをもらいながら、楽しく元氣の出る同窓会は終了しましたが、次回の同窓会幹事も決まりました。またの再会を励みに、家庭、仕事に戻っていったA組の仲間との絆を今後も続けて深めていきたいと思っています。

編集後記

母校の香りを載せて今年も「香葉」発行の季節となりました。香葉会室はエテルニテ一階に移動になりました。明るい良いお部屋です。そして新しい一歩を踏み出しました。これまでの短大の歩みを振り返り、皆様からの思い出等の原稿をお寄せ頂き、集大成として卒業生の冊子を作りたいと思います。(詳細はP1を参照して下さい。)大勢の皆様原稿を心よりお待ちしております。

燦葉会 支部総会案内
横浜港南支部 9月15日(金) 18時30分 伊勢福
西湘小田原支部 9月30日(土) 13時 小田原キャンパス
湘南支部 10月14日(土) 17時 毛キチナーデン (茅ヶ崎)
県央支部 11月25日(土) 18時 厚木アーバンホテル
お問い合わせは 燦葉会事務局 045(784)0310

香葉会 年会費・賛助金 納入者名簿

皆様のご厚意により、平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)のご寄付は668,150円となりました。香葉会の運営費の一部として有効に使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝します。今後ともよろしくお願いします。(敬称略・順不同)

Table listing members and their contribution amounts. Columns include member names (e.g., 栗林 英二, 松井 文子) and amounts. Includes sub-sections for 教職員 (Faculty) and 家庭 (Family).

関東学院女子短期大学 香葉会

Financial statement table for the association. Columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), H28年度決算 (FY2016 Actual), H29年度予算 (FY2017 Budget). Total income: 3,285,210; Total expenditure: 3,245,769.

平成二十八年年度決算・平成二十九年年度予算
平成十五年三月の卒業生の会費を最後に、香葉会の会計は皆様の年会費・賛助金をたよりに頑張っています。年間にかかる費用の多くは、機関紙「香葉」の発送にかかります。年会費・賛助金に是非、ご協力をお願い致します。